

令和6年度ジャパンリンクセンター運営計画

令和6年4月1日

ジャパンリンクセンター運営委員会

1. 委員会、メンバーミーティングの実施

(1) ジャパンリンクセンター運営委員会

ジャパンリンクセンター運営委員会を4回開催し、JaLCの運営方針を議論する。また、より持続的な運営に向けた体制について検討する。

(2) メンバーミーティング(「対話・共創の場」)

メンバーミーティング(「対話・共創の場」)を開催することで、会員間のコミュニケーションを促進し、また、会員からのニーズを把握する機会を引き続き設ける。

2. サービスの開発、運用および管理

(1) サービスの開発、調査等

DOIをめぐる環境の変化に応じたサービス開発を目指し、システムの改善や今後の開発のヒントとなる情報を、世の中の動向や会員および有識者等から収集し調査する。

(2) 運用

安定的でセキュアなサービスの提供に努める。システム運用、サービス運用業務の一部は、過年度に引き続き外部に委託して実施する。

3. DOI登録機関連業務

(1) 正会員

過年度に引き続き、正会員の入会対応を行う。具体的には、入会手続き説明、入会審査事務、DOI prefixの払い出し、システムの初期設定、データ初期登録方法の指導などである。併せて引き続き会員へのDOI登録支援として、登録マニュアルの改善やWebサイトにおけるFAQの充実、入会手続きのフロー改善等を検討する。

(2) 準会員

正会員を通じて、準会員に対するDOI prefixの払い出しに係る事務を行う。また、準会員を持つ正会員と協働して、準会員の増加を図りつつ、JaLCが提供するサービスの呼びかけを強化する。

(3) 入会説明会の開催

入会の問い合わせに対応し、都度説明会を開催する。

4. その他、JaLC の運営に関する一切の事務

(1) 「研究データ利活用協議会」との協力

「研究データ利活用協議会」の活動は9年目となる。今年度も過年度に引き続きイベント開催などによるコミュニティ醸成を図る。また、小委員会誘致や、部会活動の支援を継続する。

(2) コミュニティの醸成

ジャパンリンクセンターを支えるコミュニティの醸成に向け、DOI を中心とした PID を取り巻く動向や活用、DOI 登録業務における問題解決などに関する意見交換を行うためのイベント等の場を提供する。

また、「ジャパンオープンサイエンスサミット (JOSS)」など関連するイベントへの協力や参加を推進する。

(3) 普及・広報

月1回の会員向けメールマガジン「JaLC NEWS」の発行、WEB サイト、イベント等を通して、サービスリリース情報や規約についての連絡、国内外の DOI に関わる情報発信など、会員に対して必要な情報提供を行う。また、外部発表や会議参加等により対外的な広報にも努める。

(4) 国際機関との関わり

DOI 登録機関として DOI 財団の活動に関わる。また、Crossref、DataCite 等の DOI 登録機関 (RA) や他 PID 組織、学術インフラサービスとの連携強化を引き続き図る。

5. ジャパンリンクセンター戦略2023-2027 との対応

ストラテジー	アクション	運営計画における対応
1. 国際的な協調を図りつつ、日本における学術リソース、学術環境、言語等に対応した DOI の登録、利活用環境を整備します。	1-1. 日本の学術リソースへの DOI 登録インフラ環境を整備します。	2. サービスの開発、運用および管理
	1-2. 会員への柔軟な DOI 登録支援を行います。	3. DOI 登録機関業務 4.(3) 普及・広報
2. 学術において必要な様々なリソースへの DOI の登録を促進させます。	2-1. 研究者が利用する様々なリソースへの DOI 登録のため、メタデータ登録情報の整備を行います。	2. サービスの開発、運用および管理

	2-2. ユーザーに対し多様なリソースへの DOI 登録の利用促進を行います。	4.(3) 普及・広報
3. DOI やメタデータのオープンな利活用を推進します。	3-1. 他の ID サービスとの連携を行い、学術インフラサービスや学術情報サービスとの連携を強化します。	4.(4) 国際機関との関わり
	3-2. JaLC におけるメタデータ検索機能の充実、DOI の利用状況の提供に取り組みます。	2.サービスの開発、運用および管理
	3-3. ユーザーの意見を収集し、研究環境の変化に応じたサービス開発を目指します。	2.サービスの開発、運用および管理
4. オープンサイエンスの推進に向けて、研究データの利活用の促進に取り組みます。	4-1. 研究データの DOI に対して、国内外の組織と連携し、研究データ利活用を促進させます。	4.(4) 国際機関との関わり
	4-2. 研究データ利活用協議会 (RDUF) との協力関係をより強化します。	4.(1) 「研究データ利活用協議会」との協力
5. .DOI を活用する学術コミュニティの活性化に貢献します。	5-1. DOI 活用促進のために、イベント等を通じて、DOI の理解を深めると共に、ユーザー同士のコミュニケーションを促進させます。	4.(2) コミュニティの醸成
6. コミュニティのニーズに応える、透明性の高い持続的な組織運営を目指します。	6-1. DOI が長期的に運用されていくために、DOI 登録を担う日本の学術インフラ機関としてのあり方を検討し、拡充します。	1.(1) JaLC 運営委員会

— 以上 —